

本校の図書館教育～読書科の指導を中核として～

大杉第二小学校図書館の構想～学校全体を図書館として捉え、子供の学習へ生かす～

大杉第二小学校図書館の全体像

1階 第1図書館（職員室前）

- 貸出する場合は、パソコンで行う。
- 読書も調べ学習もできる。
- どの本で調べたらよいか司書に聞くことができる。
（レファレンス）※週1回
- 絵本も調べ学習本も配架する。
- 今後、プロジェクターも配置する。

1階 第2図書館（生活科室）

- 貸出する場合は、はんこで行う。
（1階第1図書館のパソコンで行ってもよい。）
- 小さめの丸テーブルを置く。
- 絵本、低学年向けの学習図鑑を配架する。
- 紙芝居、大きな絵本を配架する。
- 図書ボランティアの用具や材料がある。

静かであれば、どの児童も必要なときに本をさがすことができる

各教室

- 教室にも新しい本をおく。
- 中央図書館の団体貸出、第1・第2図書館からの配本。
- 図書ボランティアよる読み聞かせ（主に火曜日）

廊下「学年のおすすめの本」や辞典

- 国語・漢字辞典を配架
- 国語教科書の巻末のおすすめの本を配架

少しずつ変わってきた図書館



第2図書館



第1図書館



地域と学校が協力して進める読書科の推進

図書ボランティア（保護者、地域の方々）による月1回の読み聞かせ活動、装飾、清掃などの学校図書館の環境整備を行っています。学校と地域が協力して、児童の読書活動の充実に努めています。



この2年間で図書館の環境整備を進めてきました。

学びの拠点となる「第1図書館」と、絵本を中心とした「第2図書館」とし、学習活動に合わせて活用しています。図書ボランティアの方々と連携し、学びにつながる図書館づくりを目指しています。

本校の図書館教育～読書科の指導を中核として～

学校図書館全体計画

大杉第二小学校

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする。

学校教育目標
よく考え進んで学ぶ子
思いやりのある子
明るく元気な子

多くの児童が本好きで、読書量も増加しているが、調べ学習等で図書館を利用する機会は少ない。

【目指す子供像】 主体的に読む子供 問い続ける子供

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学習の基礎を培う。

ねらい

- ① 子供の読書意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身に付ける。
- ② 学び方指導を充実し、図書館活用の望ましい態度や技術を高める。
- ③ 多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 教育課程全体を通して、計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。
- ② 学校図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ③ 司書教諭を中核とした学校図書館教育の推進を図る。

各学年の重点目標

学年	重点目標
第一学年	・読み物を楽しんで読み、記録する。 ・学習図鑑を使って調べることができる。 ・図書館に親しんで利用できる。
第二学年	・様々な種類の本を読もうとする。 ・進んで図書館を利用して調べようとする。
第三学年	・読み物をすすんで読もうとする。 ・学習図鑑を使って調べることができる。 ・図書の扱い方や借り方など正しく利用できる。
第四学年	・読書の幅を広げ、すすんで読み、読書量を増やす。 ・調べ学習に意欲的に取り組む。
第五学年	・読書を通して知識を増やし、心情を豊かにする。 ・目的に応じて図書館を適切に利用する。
第六学年	・適切な本を選んで読書習慣を定着させる。 ・学び方を身に付け、課題解決能力を高める。

具体的な取組

【各教科】

- 図書館機能を活用し、問題解決的な学習、本で調べる学習、個別指導やグループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 発展的な読書の指導を行い、読書習慣、態度を養う。

【総合的な学習の時間】

- 実社会や実生活の中から問いを見いだし、自分で課題を立て、情報収集、整理・分析して、学び方や考え方を身に付ける。(学習図鑑やインターネットなどメディアの活用、聞き取りなどの情報収集ができる。)
- 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、社会に参画しようとする。
- 系統的に情報収集、情報活用能力を育成する。

【道徳】

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で、自分を深め、道徳的心情を培う。

【読書科】

- 「目的に応じた読書」「読み聞かせ」等による読書の推進、習慣化を図る。
- 「おすすりカード」「ピブリオバトル」等による読書意欲の向上を図る。
- 課題の解決、探究的な活動に主体的に取り組む。(調べる学習コンクールへの参加)

【特別活動】

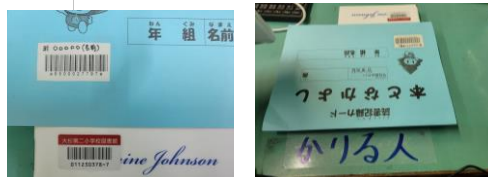
- 図書委員会を中心に、自発的・自治的に図書館を運営し、読書活動推進を展開する。
- 特別活動の中で積極的に図書館を活用する。

【家庭・地域との連携】

- 年3回の読書旬間により、子供、家庭への啓発をする。
- ボランティアや公立図書館との連携を図る。
- 区立図書館職員による巡回を活用し、読書科の充実を図る。

朝の読書科の推進 推進組織の確立・充実

図書館経営評価の実施 図書環境の整備・充実



本のかりかた・かえしかた

○本をかりるとき 一人1冊1週間

- ① かりる列にならぶ。
- ② 個人バーコードと本のバーコードをそろえて出す。
【ポイント】 2つのバーコードをならべて出す。
- ③ 先生や図書委員がスキャンしやすいように出す。
【ポイント】 自分向きではなく、ぎゃくの向きに出す。

○年○組○〇〇〇 (なまえ) です。
【ポイント】 クラスとなまえをつたえる。

先生や図書委員が名前やかし出し中の本がないかを確認してかします。

○本をかえすとき



かえます。

【よくない例】

- ・本のバーコードがうらがわにある。
- ・個人バーコードと本のバーコードがならんでいない。(図書委員がこまります。)

きまりをまもってかりよう!

令和5年9月よりパソコンによる蔵書管理システムに移行したことにより、オンラインで貸出オリエンテーションを全校で実施しました。読書記録カード(「本となかよし」)に個人バーコードを搭載して、日常的な図書館活用の促進を図っています。コンクールなど子供の関心の高める取組を今後も続け、「主体的に読む子、問い続ける子」を目指します。

図書委員会 よみきかせ集会



多読賞を2種類設け、子供の読書活動の啓発に努めています。1年間で60冊(全学年)と、1万ページ(3~6年)の多読賞です。また、読書旬間(年3回)のでは、教職員や図書委員会の読み聞かせなども行い、読書の楽しさを伝え、読書の日常化を進めています。